

【第2回環境審議会の詳細】

日時 平成28年9月6日（火）14:00～16:00

場所 町民センター小ホール

出席 本間泰則委員、新谷志織委員、柴田真年委員、牧野雅之委員、黒滝 博委員、猪狩和大委員、
葛西奈津子委員、中川 明委員

片山町長、山本課長、桜井係長、大野主任

欠席 阿部武吉委員、チャーチル真知子委員

主な内容

平成28年度4月～8月に行った環境に関する主な取組

今年度委託事業「第2次ニセコ町環境基本計画見直し・環境白書作成支援業務」

今年度委託事業「ニセコ町環境モデル都市フォローアップ資料作成支援業務」

1 町長あいさつ

- ・環境政策に関しては2001年以降ずっと関わってきた。当時はダイオキシン問題があり、3年間激しい議論を行い、北海道で初めて屋根付の一般廃棄物処分場を建設し、汚水をコントロールするしくみにした。私たちがここで生活する価値は景観と環境を守ることであり、よい環境を子供たちに残したいという思いから、水を守ることなどを覚悟を持って進めてきた。こうした原点を踏まえつつ、ライフスタイルにつなげていくことが大事だと考えている。

2 報告事項

- ・平成28年度4月～8月に行った環境に関する主な取組（資料1～資料2）

別紙資料1について、事務局より説明を行った。

【質疑・意見等】

- ・4月の地熱発電に関する住民説明会では、8月頃町民を交えた協議会を設立するという話だったが、どうなったか。
→日本重化学工業が現在、経済産業省に申請中の地熱理解促進事業の中で町民や温泉事業者とともに勉強会や事例視察を行い、協議会についても検討する予定。採択結果は9月中に出る。
- ・地表調査の結果は公表されるのか。
→地熱理解促進事業の勉強会の中で、お知らせしていく予定。
- ・補足だが、7/5に行った省エネ建築の勉強会の講師が所属するクラブヴォーバンは、環境ジャーナリストの村上敦さんが主宰しており、省エネ建築などの専門家が多数所属している。ニセコども館は断熱に注力したが、それでもドイツでは普通のレベルとのこと。ニセコ町でも公共、民間含めて省エネ建築を進めていきたいと考えている。例えば集合住宅を建てる時は、初期投資が高くても断熱をきちんとすればエネルギー代金として外に流出させないで、地元の建設会社など町にお金を循環させ、50年後に価値ある建物が残すことができる。
→町の建設課が省エネ施策を検討しているのは聞いているが、省エネ建築へのインセンティブづくりはいつ頃を目処にできるのか。環境審議会としては、ぜひ早く実現させてほしい。
- ・時期は決まっていないが、はじめるとなれば早い。
- ・来年度でアパート新設の際の固定資産税減免制度が終了する。民間の賃貸建設については、断熱

性能、遮断性能などの基準を設定し、質の高いアパートの建設へ建設費の一部を補助する制度へ変えていく。

- ・エデュケーションプログラムについて。7/28の説明会に参加したが、広報の回覧板だけのお知らせで残念。地域おこし協力隊が中心となって企画している印象を受けたが、ニセコ町に来たばかりで事情がわかっていない部分もある。審議会などで説明会に至るまでの経緯などの報告があるとよかった。
- 環境モデル都市アクションプランに海外向けにニセコ町の環境の取り組みを知らせていくことは記載している。ただ講義をしてお金をもらうのは難しいので、宿泊するホテルに環境施設の案内も担っていただくのがいいと考えているが、説明会での観光事業者の反応はあまりよくなかった。この話は宿泊施設から要望があった事業でもある。
- ・修学旅行を受け入れるには旅行会社と組むのがいい。きちんとプログラムを作れば可能性がある。
- ・地元ですでに農業体験などを行う事業者がいるので、その事業者とつながるのはどうか。うちでも農家体験で修学旅行生を受け入れているが、先生と話すとき修学旅行もアウトドアから社会勉強や環境学習など求めるものが変わってきている。
- ニセコリゾート観光協会と組んでいるが、担い手をどうするのが課題。
- ・ホテルよりも年配のボランティアなどはどうか。説明も上手な人が多い。うちでは札幌大学と提携して大学生向けに観光の人材養成講座を行っている。
- ・11月に札幌開成中学校が160名訪問すると聞いたが、そのときの説明はどうするのか。
- ニセコリゾート観光協会を受けており、観光協会に対応する。役場職員への要請があるかもしれない。

別紙資料2「綺羅乃湯のバイオマスボイラについて」事務局より説明を行った。

【質疑・意見等】

- ・私も勉強会に参加したが、町として今後はどうしていく予定なのか。
- ダイオキシンを除去する方法にかかる費用と燃料代による投資回収が判断基準。現在ダイオキシン除去方法と費用についてボイラメーカーに問い合わせている。
- ・寿都町は風で有名な町であり、風で飛ばされてしまう、人が住んでいる場所から離れた場所に温泉があるなど、ニセコ町とは事情が違う。
- ・寿都町でもニセコ町で行う場合にはバグフィルタをつける必要があるとの話があった。投資に見合えばいい。
- ・元々小さな焼却炉では断続的に燃やすため、どうしても800℃以下になる時間帯ができてダイオキシンが発生してしまうという問題があり、ごみ処理を広域化して焼却炉を大きくし、常に燃焼し続けることで800℃以上を維持するようにした。ボイラは焼却炉と違いダイオキシンの規制はないが将来的には規制がかかってくる可能性がある。バグフィルタは布のフィルターでダイオキシンを除去しており、焼却炉でバグフィルタに穴があいていてダイオキシンが除去しきれないなどの事故が起こった事例が過去にあった。CO₂を削減するためにバイオマスボイラを導入するのであれば、RDFを混ぜないで木質バイオマスだけを燃料にすればいい。その場合はニセコ町の場合は木の調達をどうするのが課題。
- 綺羅乃湯は町の施設だが、民間に経営を委託している。民間の努力でなんとか黒字経営を続けているが、重油単価に経営が左右されてしまうことからいろいろ検討してきた。木質バイオマスも検討したが燃料調達の課題があり、RDFを混ぜることで解決できると考えたが、ダイオキシン問題がある。単純に考えるとダイオキシン除去を行えば投資回収は難しいという結論になるだろ

う。そのため、固形燃料ボイラではない方法を考えなければいけないと考えている。

- ・寿都町も基本は解体材からの木質バイオマス燃料を使い、冬熱量が足りないときに熱量の高い RDF を使っていた。

3 審議事項

- (1) 今年度委託事業「第2次ニセコ町環境基本計画見直し・環境白書作成支援業務」(資料3～資料5、当日配布資料)
- (2) 今年度委託事業「ニセコ町環境モデル都市フォローアップ資料作成支援業務」(資料6)

別紙資料3～資料5について、委託先のコミュニティ研究所の梅田氏より説明を行った。

- ・データ集がこれだけまとまっているのはすばらしい。エデュバケーションの資料としても利用できる。せっかくの資料をきちんと活用していくことが大事。
 - ・環境の講師は役場職員だけでなく、詳しい方がたくさんいる。
- これだけ多くの活動をしているので、ヒアリングを通して物語にできると考えた。
- ・物語ができれば朗読や演劇などをやろうとする人も出てくるかもしれない。サイエンスカフェも北大 CoSTEP で行ったことがきっかけとなり、まちづくり町民講座、蘭越高校での講演と続いてきている。9/24-25 と学生が「科学を伝える」をテーマにニセコ町に来るが、環境をテーマにしたい学生もいる。活用のアイデアはいろいろある。
 - ・資料に記載のある平成10年に行った「尻別川水系河川環境整備計画」は当時様々な議論があった。反対派からは河川改修を行うのではと危惧されたが、たくさんのワークショップを行い、住民とともに話し合う中で反対派も積極的に関わるようになった。
 - ・どのような物語になるのか非常に期待している。

資料6について、事務局より説明を行った。

- ・今までの按分方法ではCO₂が増えていくので、より実態に即した数値にするための調査を委託している。
 - ・来年度以降は町自身で行えるように今後の調査方法の枠組みも出してもらえるのか。
- 調査フォーマットまで作ってもらう。町内燃料店5店だけは毎年ヒアリングが必要だが、それ以外は今年の調査結果から何割の方が町内から購入しているのかを調べて推計できるようにする。
- ・大手は重油をほとんど町外から購入していると思うが、電力データは実績の数値が参考になる。
 - ・ガソリン・軽油は町民に販売したかどうかわからないので、補正できない。
 - ・環境モデル都市なので、条例で毎年重油使用量などの化石燃料使用量の報告義務を課したらどうか。
- 東京は大手にそのような報告義務を課している。
- ・報告義務があれば新しくホテルを建設する業者にとっても意識がかわると思う。
- すべての観光事業者は難しいが、昨年度GPP事業で調査した大手11者に対しては燃料店と同様に毎年の燃料使用量を聞くことを考える。
- ・建設会社は冬の燃料使用量が多くなる。1台1時間あたりの燃料使用量を見て、多く使用している運転者には注意する。新しい車両は燃料消費量が細かくわかるようになっている。風の抵抗も大きいので、トラックなどは抵抗を避けるデザインもでてきている。
 - ・アドバイスを活かして今後の調査を進めてください。

自由意見交換

- ・省エネ建築を町でも進めるといった話があった。国は省エネして太陽光パネルも乗せて発電してZEH（ゼロエネルギーハウス）にするという方向だと思うが、ニセコのような雪の多い地域では太陽光は現実的でないので、断熱だけでも強化したら補助を出すなど、使い勝手のいい補助制度にしたらどうか。壁の厚さなど町独自の基準を作って、基準を満たした建物はOKとするなどしたら使いやすいと思う。
- クラブヴォーバンでも国の施策に沿って考えているわけではないので、方向としては同様だと思う。（追記：既存住宅の省エネ改修については、補助制度がある。新築については、現時点では国の補助制度の活用を考えている。今後はニセコ町独自の基準等も検討予定。）
- ・景観に関する話題提供だが、隣に家が建つということで工務店が挨拶に来た。町には景観条例があるので、どのようなものが建設されるのか聞いたところ、近藤地区には特に規制はないと聞いてびっくりした。東山など一部しか規制がないとのことだが、町の景観を守っていくために町全体に広げることができないか。
- 景観条例は町全体を対象としており、高さ10m以上もしくは1000m²以上の建物を建てる時には町との事前協議が必要で、町で同意不同意を判断する。建設がだめということではない。準都市計画は開発が進みそうなアンヌプリや東山、モイワなどを準都市として指定し、建物の色や形を規制しているが、それ以外の地区は努力義務である。
- 最近では、建築確認を町を通さず、工務店から直接民間の確認審査機関に申請することが増えてきた。その場合、計画が決定した状況で初めて、その土地にどのようなものが建つかがわかることが多く、冬の除雪の問題などトラブルも増えている。そのためできるだけ設計段階で相談してもらおうなどの対策を考えている。

4 その他

- ・北海道環境財団から印刷物での「震災復興型カーボンオフセット用紙」の紹介。鶴雅観光開発ではパンフレットに使用している。
 - ・町内でそのような製品を購入したいと思っても購入できないのが残念。
- 役場はすべての製品はグリーン購入を行っている。
- ・次回は12月5日（月）14時～開催予定。進捗状況によっては改めて日程調整する。

5 閉会

片山町長

先日小学生との懇談で環境の話題がたくさん出た。森林の違法伐採への町の指導はどうか、ちびっこ広場にごみの投げ捨てがある、など。ポイ捨て条例を作ったが、町民が拾うことが大事だと考えている。それに対してがんばっている町内会や人を表彰するなど評価しているのか、という指摘があった。たしかにそういった方をきちんと評価するのは大事だと気づかされた。ごみを拾うなどの小さな取り組みを重ねながら、CO₂削減の大きな取り組みにつなげていきたい。